



福岡市議会議員〈南区〉

近藤さとみ

いきいき便利 Vol.23
2021 NEW YEAR
『いきいき』豊かな『まちづくり』



発行者：福岡市議会議員 近藤里美 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 福岡市庁舎議会棟 福岡市民クラブ議員控室
TEL:092-711-4736 FAX:092-732-4055 E-mail:satomi-kondo@fukuokashimin.jp URL:http://kondo-satomi.jp

新春特集

コロナ禍を乗り越える医療保険体制について考える

衆議院議員いなとみ修二
(厚生労働委員会委員)



福岡市議会議員近藤さとみ
(福祉都市委員会委員)

新たな年を迎えましたが新型コロナウイルス感染症対策は、引き続き大きな課題。今号では、国政・市政で保健福祉を所管する委員会に所属する二人で今後の医療・保険体制について考えます。

■保健所機能の強化が急務

近藤：各区保健所は、市民からの相談やPCR検査の対応など、膨大な業務量となっており、改めてその重要性を認識させられています。行財政改革が進められる中、保健所も例外なく人員が削減されてきました。今はむしろ体制強化が必要であり、市長に要望したところです。

稲富：通常の機能に加え、検査結果に基づく医療機関との連携、濃厚接触者の聞き取りなど、本当にご苦労が多いことと思います。コロナ感染拡大を防ぐ上で、重要な役割を担っていただいております。国においても保健所機能の強化を求めているところです。

■医療の維持に必要な公立病院

近藤：コロナ対策として「医療体制を崩壊させない」というフレーズをよく聞きます。感染症患者用の病床を平時にも確保・維持することも含め、福岡市の市民病院をはじめとする公立病院にはどういった役割が求められているのでしょうか。

稲富：公立の医療機関の役割として、がんセンターなど民間では限界のある高度・先進医療の提供や、救急・小児・周産期・災害などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供、離島などの過疎地における一般医療の提供などが

挙げられます。コロナ病床の確保も大きな役割ですので、人員確保も含めた支援が必要だと考えています。

■新薬・ワクチン開発と基礎自治体の役割

近藤：昨年末から海外では新たに開発されたワクチン接種が始まったという報道がありました。日本でもワクチンや新薬の開発が期待されています。国内の動向について教えてください。

稲富：国内でも複数の企業でワクチンの研究が進められていますが、臨床試験に入っているのは1社のみであるようです。新薬についても、同じく臨床試験が行なわれています。また、既存の薬品について、治療薬としてレムデシベルをはじめ2種類が使用を認められており、アビガンなど適応外使用が可能なものもあります。

近藤：6月以降、ワクチン投与が始まると聞きます。私たち基礎自治体はどんな役割が求められますか。

稲富：先の臨時国会で予防接種法が審議されましたが、福岡市をはじめとする市町村には、医療機関との調整や接種に関する各種手続き、市民への通知、勧奨、相談対応などが求められます。ワクチンの保管方法など悩ましい点も多く、引き続き、現場の声をいただきながら、国政の場に届けていきたいと思っています。



常任委員会より コロナ感染対策 さらに 強化します!

昨年の11月ごろから陽性者数が全国的に増え始め第3波の襲来とされる中、福岡市ではさらなる感染症対策を講じるべく、PCR検査体制を強化するための令和2年度一般会計の追加補正を含め、12月議会にて提案され、福祉都市委員会にて詳細を確認しましたのでご報告します。



①検査センターの増設

感染者や接触者の急増による検査に備えます。
対象：接触確認アプリ(COCoA)で通知を受けた方などで、普段通り生活をして差し支えない方
開設場所：市役所議会棟1階駐車スペース(西鉄バスの車両を提供いただきます)
※事前予約制



②出張PCR検査

専用車両を活用した出張検査を実施します。
対象：移動が困難な方が多い高齢者施設や感染流行地域内の関係者等
※検体採取が可能なPCR検査車両で、陽性者と同じビルや施設等へ出向き検査を行ないます。(出張先は保健所にて調整します)



③高齢者を対象とした費用助成

PCR検査を希望する高齢者の費用を助成します。
対象：65歳以上の発熱等の症状のない高齢者(発熱など感染症の疑いのある場合は通常のPCR検査(自己負担なし)です。)
受診回数：令和3年3月末までの間で、1回限り
費用負担：6,000円~8,000円
受診方法：民間の医療機関で実施。
※詳細は1月中旬頃公表の見込み。



④介護・医療従事者への検査費用助成

民間事業者によるスクリーニング検査を開始。
対象：高齢・障がい介護施設等の従事者、医療施設の従事者、感染多発エリアの関係者等
費用負担：自己負担なし
受診方法：事業所ごとに申込みを受付(最大検査数 2,500件/日)
※検査の結果、陽性反応が出た場合は、改めてPCR検査が必要となります。



声をカタチに! 「一灯点滅式信号機」に替わる安全対策を考えよう!

昨年9月、いただいたご相談をきっかけに、一灯点滅式信号機の撤去が決まったことを知りました。現在、南区に59基ある当該信号機がここ数年の内に無くなることから、次なる安全対策を考えていく必要があります。



なぜ、無くなるの?

赤・黄色の一灯点滅式信号機(右写真)は、福岡県を中心とした九州地区以外は設置数が少なく(東京都・千葉県は設置なし)、他県等から来られたドライバーには、信号機として認識されていないケースが増えてきました。修理用の部品も限られ、補修もできない状況となっています。

どうする?今後の安全対策 ~安全の見える化へ~

点滅式信号を撤去する際には、交差点の赤信号方向に対し、STOPの英語表記付でより反射する(光る)一時停止標識を設置するとともに、道路の区画線や「止まれ」表示の強調、交差点内のカラー化など、ドライバーから見て交差点があることがよりはっきりとわかるよう「見える化」をはかるとのこと。ただし、この「見える化」の対応は各區役所が実施することとなるため、市長への令和3年度予算要望の中で、区の予算としての確保を強く要望したところです。皆さんの地域にある身近な信号がなくなります。改めて、地域の交通安全対策について、一緒に考えていきましょう。



ご案内

冬の市政報告&懇話会を開催します!

12月議会についてご報告し、皆さまからご意見等をお伺いする会です。所要時間は1時間の予定。マスク着用にてお越しくださいませ!

2月7日(日)10:00~「塩原公民館」1F講堂

2月18日(木)18:30~「アミカス」2F視聴覚室

2月21日(日)10:00~「三宅公民館」1F講堂

